

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉						
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
戸 室 室 座 寝 寝 外 内 内 位 返 返 歩 歩 移 保 り り 行 行 動 持 可 不 可 可 可 可 可 可 (移動機能)						
〈特記事項〉 C: 有意な眼瞼運動なし B: 盲 D: 難聴 U: 両上肢機能全廃 TLS: 完全閉じ込め状態						

可能になるのは、掛けられた言葉の初めの部の聴覚情報だけで、それが自分にとって重要な情報であることを瞬時に判断できるからです。これは高度な能力です。この能力が十分でなければ、声に反応できず、聞こえないこととなります。声かけに対する反応が乏しい人のなかには、この気づく能力が問題の人がいるはずで、こうした人には、気づきの負担を減らした声の聞き取りができるようになります。

理解のない重症心身障害児(者)の聞こえの世界を理解するには、まず、言語として成立する以前の段階にあるその人の「ことば」、声に対する気づきの程度をよく知らねばならないと考えています。



こだまの 日常生活紹介 和田 利重子

Aさん(横地分類A1)は声をかけるとニコッとしたり、楽器の音をジッと聞いたりします。音の変化を楽しむ活動をしました。新聞紙を「ビリッ、ビリッ」とリズムカールに破いていき、最後に「ブリーツ」と一気に破りリズムに変化をつけて行いました。「ビリッ」と耳元で破くと、パッと目を大きく開き、新聞紙を破る音に気がついた様子です。「ビリッ、ビリッ」とリズムカールに破いていくと、体の動きを止めて、ジッと音に耳を傾けています。最後に一気に「ブリーツ」と破くと、目を大きく見開き、破り終えた後に口角を上げて笑顔になります。



お腕を回転させると、はじめはグルングルンと大きくまわり、グアングアンというような音がします。だんだん回転が小刻みになり、最後はカタカタという音に変わり、止まります。Aさんはこの変化する音に面白さを感じているようで、音がし始めると、体の動きを止めてジッと集中して聞き始めます。だんだん回転が早くなり、カタカタと開き、何か期待しているような表情に変わっていき、最後に「カタツ」と止まると、一拍くらい間を空けて、ニコッと笑顔になっていました。職員がお腕を上手く回せず、すぐに音が止んでしまうので、「エツ」というような怪訝そうな表情をしたり、口を尖らせて不満そうな様子になったりします。音が長く続くとよく聞き、音が終わった後も満足そうに笑みを浮かべていました。



『どんどこもんちゃん』は「どんどこんどこ」の繰り返しリズムが面白い絵本です。『どんどこもんちゃん』を読み始めると、Aさんは体の動きを止めて、ジッと聞き始めます。「どんどこどんどこもんちゃんがいそいでいます」のフレーズが繰り返して出てくると、だんだんと口角が上がって、楽しそうな表情になっていきます。「どんどこ どんどこ」のという言葉自体に面白さがあり、繰り返し返される事でより言葉のリズムを感じて聞いているようでした。ももんちゃんが進んでいくと、「どんつ」とくまさんが登場し、ももんちゃんとお相撲をとります。「どんつ：ど、どどどど・・・どーん」と擬音が続きます。最初の「どんつ」の後に少し間を空けると、Aさんはハッと目を開き、読んでいる方をチラッと見たり、キョロキョロと視線を動かしたりし、次の言葉待っているように感じられます。